

No.39 輝けきくち

青少年育成推進員だより

問い合わせ先
菊池市教育委員会
生涯学習課内
☎0968(25)7232

菊池ふるさとかるた史跡めぐり

11月7日、菊池北部コースの史跡巡りを行いました。
バス2台で総勢50人が参加し、穴川夜神楽・竜門ダム・墨染桜・古川兵戸井手・めがね橋・菊池溪谷・原井手・千畳河原・古耕精舎塾跡・八方ヶ岳・鞍岳・赤星天満宮・琵琶池・則隆公墓所・菊之池を見学しました。

竜門ダムではクイズが出され、参加者は見学そっこのけで答えを探索。千畳河原では昼食をとりながら豪快な産さん淹に歓声をあげました。井手の散策では、



たくさんの史跡を巡りました

古川兵戸井手の平山八左衛門、原井手の河原左衛門の功績をしのびました。
ことは、七城・泗水・旭志地区のかるたの史跡を巡ります。皆さんの参加をお待ちしています。
中山玲子

菊池ふるさとかるた大会

菊池市青少年育成市民会議は昨年12月5日、菊池市文化会館小ホールで第8回菊池ふるさとかるた大会を開催しました。

この大会はふるさとを知り、菊池大好きっ子が増えることを願って行われているもので、市内の小学校から135人が参加しました。

私たち青少年育成推進員は、事前に審判講習会を開き、模擬練習をしました。当日はどの選手が札を取ったのか判断しなければなりません。また、詠み手は最初の一言で勝負が決まるのでタイミングに気を遣いました。子どもたちの真剣勝負を応援するため、今後もスタッフ一同スキルアップし、次の大会を迎えます。



熱戦が繰り広げられました

えたいと思います。

柱松香澄

中原地区自主防災訓練

2月14日、消防団・区民・小学生などが参加し、中原を考える会主催の防災訓練とJA女性部による炊き出し訓練を行いました。

子どもたちは大人と一緒に、消防団員から消火器の使い方を教わり、実際に燃えている火を消しました。初めて消火器を触る子どもたちは恐る恐る消火器のレバーを握り、炎に向かって噴射。勢いの強さにびっくりした様子でした。その後、参加者全員でJA女性部の人たちが作った温かいそばを試食。子どもたち同士の会話にもぎやかに弾んでいました。

子どもたちは楽しみながらの訓練でしたが、いつ起こるか分

からない災害に対して、小さい頃から備えておくことが大切だと思います。

米川富貴



消火器を使った初期消火訓練

のぼり旗設置

菊池市青少年健全育成五訓は、市内の小中高校生が、夕方防災行政無線で放送しています。さらに周知を図るため、五訓を書いた5色ののぼり旗を小中学校に配布しました。

七城小・中学校を訪問し、両校の校長先生に設置をお願いしました。七城中ではいち早く正門前に立てられ、青空の下に旗が整然と並び、風にはためく姿はカラフルで壮観です。

登下校時の子どもたち、学校を訪れる保護者の目に触れることで、啓発効果が上がればと願っています。健全に育った子ども

たちが、菊池に住み、市の発展を支えてくれることを夢見てやみません。

江藤継喜



青少年健全育成五訓ののぼり旗

つれづれなるままに

拙作の肥後狂句を通して若者にエールを送ろうと思う。

しかし、「老人クラブ 日本の元氣背負っとる」と意気盛んな高齢者に比べて「恵まれて忘れてしまったハングリー」と、若者の覇気の無さが気になる。

その上「心細さ 増える年寄り減る子ども」の厳しい現実もある。それでも「元氣のよさ 冬も半袖半ズボン」の子などを見ると頼もしい。

どうか「心うきうき 宿題は無ア春休み」を満喫したら、新年度は遅く、夢に向かって突き進んでほしい。「前途洋々も 光堀善教

No.34 スポーツ推進委員だより

スポーツ

問い合わせ先
菊池市
スポーツ推進委員
協議会広報部
☎0968(25)7234

地区別研修会

昨年12月12日、泗水公民館で、スポーツ推進委員の資質向上などを目的に研修会を開催しました。

講師に帝京大学福岡医療技術学部講師、田尻浩昭さんをお招きし、安全管理とリスクマネージメントをテーマに、「事業やイベントを行う際には、どのような点に注意が必要か」「事故を未然に防ぐために必要な対応について」などの話があり、主催者や事務局が注意しなければならぬことや、私たちが普段考えている以上の計画性や共通認識の必要性など、巧みなトークとユーモアを交え講習していただきました。笑いつぱいの中、本当に有意義な90分の研修会でした。

その後泗水B&G体育館に移動し、ニュースポーツ体験でカローリングの実技研修を行いました。各6チームをくじ引きで編成し、初めてチームを組む人たちと協力しながら、ローラーを12が先にある直径90の的に



安全管理とリスクマネージメント研修

九州地区研究大会

1月30日・31日、長崎県大村市で第58回九州地区スポーツ推進委員研究大会が開催され、本市から

13人が参加しました。九州各県を合わせると2千人を超える参加者となり大盛況でした。

この研究大会は九州各県のスポーツ振興の課題と活動成果の研究協議を行い、委員としての資質向上を図り、生涯スポーツに親しむ社会の実現に役立てることなどを目的に、九州各県で毎年開催されています。ことは全国的に有名な監督、指導者を招待して開催されました。

大会は保育園児による和太鼓演奏と大学生のソーラン舞踊のアトラクションで始まり、子どもたちの元気ハッラツとした演奏、大学生の力強い演舞で、委員たちも長距離移動の疲れが吹き飛びほど楽しいオープニングでした。

1日目は特別講演として智弁和歌山高校野球部監督の高嶋仁さんの講演がありました。「健全な身体を未来へつなぐスポーツの力」をテーマに、弱小野球部を甲子園優勝チームまで育てあげた練習法や、生徒にやる気と自信を持たせる目標作りなど、自身の体験談を面白おかしく紹介されました。甲子園決勝戦前後の秘話など他では聞く事のできない経験談もあり、貴重で興味深い講話でした。

2日目は元日本男子バレーボール代表監督の植田辰哉さんから「学ぶことをやめたら教えることをやめなければならない」との提



元監督の植田さんと推進委員



スポーツ推進委員の皆さん

案を受け、植田さん、春高バレーの優勝・準優勝チームの監督とホスト県の推進委員による質疑形式の情報交換会が行われました。今回、大会へ参加したことで現役指導者の考え方や、指導方法などを直接聞くことができ、良い勉強になりました。夜の懇親会では委員同士の親交も深まり、非常に意義のある研究大会でした。

スポーツ推進委員の役割

スポーツ推進委員はスポーツ基本法で「市町村のスポーツ推進のための事業実施の連絡調整、住民に対するスポーツの実技指導や助言を行う非常勤職員」と定められています。私は23年間推進委員として大会運営に関わり、地域の皆さんと自分自身の健康や体力向上に努めてきました。

近年、スポーツを取り巻く環境は多様化し児童の運動能力低下、各地域の大会参加減少、小学校部活動の社会体育移行など多くの課題を抱えています。こうした課題を解決するために推進委員は、研修会や研究大会などに参加し、さまざまな課題の研究と協議を行っています。ニュースポーツの出席講座を各地域で行ったり、菊池ゆづったりスポーツクラブの運営をサポートしたりして、市民の皆さんが気軽に運動できる環境を整備するなど、スポーツの普及にも力を尽くしています。

これからも市民の皆さんと一緒にスポーツ推進と普及活動を行い、推進委員の指導と資質向上にまい進していきます。

菊池市スポーツ推進委員協議会
会長 小林孝夫